比　恵 34

—比恵遺跡群第 74 次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 820 集

2004

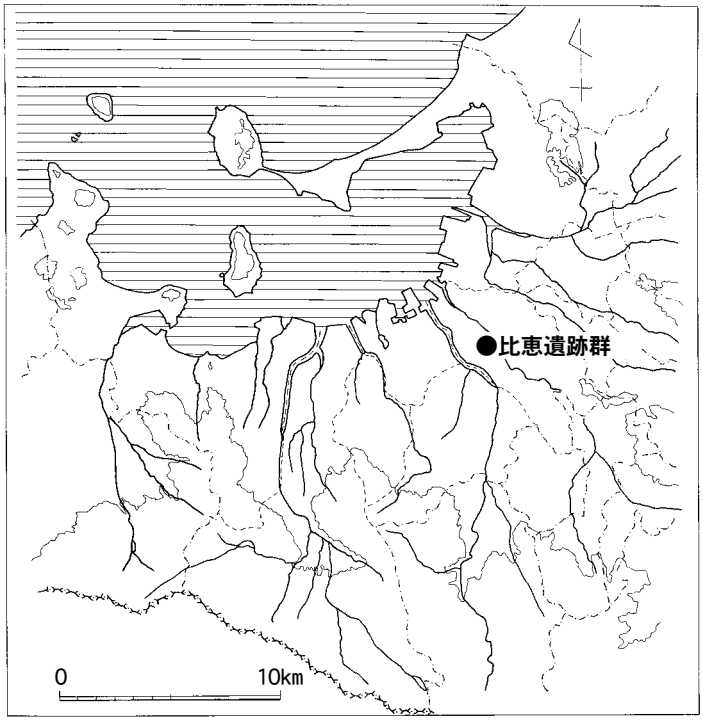
福 岡 市 教 育 委 員 会

HI　　E

比　恵 34

—比恵（ひえ）遺跡群第 74 次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 820 集



遺跡略号	調査番号
HIE-74	0101

2004

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

福岡市の陸の玄関口である博多駅の南側には古くから大陸文化流入の先進地として栄えた「奴国」の拠点地域とされる遺跡群が広がっています。今回報告する比恵遺跡群はその内の代表的な遺跡であり、近年の再開発に伴い現在まで90次に及ぶ発掘調査が行われ調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は共同住宅建設に伴って実施された第74次調査を報告するもので、調査では弥生時代から古代にかけての遺構と遺物が検出されました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた株式会社理研ハウスの方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成16年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　生田　征生

例　言

1．本書は共同住宅建設に伴い福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成 13(2001) 年度に発掘調査を実施した福岡市博多区博多駅南 6 丁目 18 番 2 所在の比恵遺跡群第 74 次調査の報告である。

2．本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課佐藤一郎・松浦一之介、遺構の撮影は佐藤、遺物の実測は佐藤・松葉祐輝、撮影は佐藤が行った。

3．製図は遺構を石水久美子、遺物は佐藤が行った。

4．本書の執筆・編集は佐藤が行った。

5．本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調 査 番 号	0101	遺跡略号	ＨＩＥ－ 74
調査地地籍	博多区博多駅南 6 丁目 18 番 2	分布地図番号	東光寺　37
開 発 面 積	400㎡	調査実施面積	365㎡
調 査 期 間	2001.4.2 ～ 2001.5.31		

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに
　1　調査にいたる経過 ・・・1
　2　調査の組織・・・2
Ⅱ．発掘調査の概要 ・・・3
Ⅲ．遺構と遺物
　1　検出遺構 ・・4
　2　出土遺物 ・・6
Ⅳ．小　　結 ・・10

挿　図　目　次

第１図　比恵・那珂遺跡群調査地区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第２図　比恵遺跡群第 74 次調査地域周辺図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第３図　比恵遺跡群第 74 次調査遺構配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第４図　検出遺構実測図(1)・・4
第５図　検出遺構実測図(2)・・5
第６図　出土遺物実測図(1)・・7
第７図　出土遺物実測図(2)・・8
第８図　出土遺物実測図(3) ・・・9

図　版　目　次

図版１　(1) 比恵遺跡群第 74 次調査全景（南西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　　(2) ＳＢ 01 掘立柱建物（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
図版２　(1) ＳＢ 01 掘立柱建物柱穴 Pit29 土層（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(2) ＳＢ 01 掘立柱建物柱穴 Pit24 土層（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(3) ＳＫ 05 土坑（南から）・・・12
　　(4) ＳＢ 01 掘立柱建物柱穴 Pit24 柱根検出状況（南から） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(5) ＳＥ 01 井戸土層（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(6) ＳＥ 01 井戸完掘状況（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(7) ＳＫ 07 土坑土層（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　(8) ＳＥ 06 井戸土層（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

図版３　(1) ＳＫ 24 土坑（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(2) ＳＫ 30 土坑（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(3) ＳＫ 17 土坑（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(4) ＳＫ 37 土坑（南東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(5) ＳＤ 04 溝土層④（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(6) 出土遺物・・・13

Ⅰ　は　じ　め　に

1　調査にいたる経過

2001(平成13)年2月1日、株式会社理研ハウスから本市に対して博多区博多駅南6丁目18番2における共同住宅新築工事に伴う埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である比恵遺跡群の南東部にあたる。申請地の北東側では共同住宅建築に伴う発掘調査が行われている。福岡市教育委員会埋蔵文化財課はこれを受けて2001(平成13)年2月20日に試掘調査を行った。現況は更地で、南東側の建物建設予定地にトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下120cmの旧耕作土下の八女粘土上面で遺構を確認した。申請者と埋蔵文化財課は文化財保護に関す

第1図　比恵・那珂遺跡群調査地区位置図

る協議をもったが、共同住宅が新たに建設される部分約 400㎡ を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は翌 2001(平成 13)年４月２日から５月 31 日まで行われた。

２　調査の組織

調査委託　福岡市教育委員会

調査主体　福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課

調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男

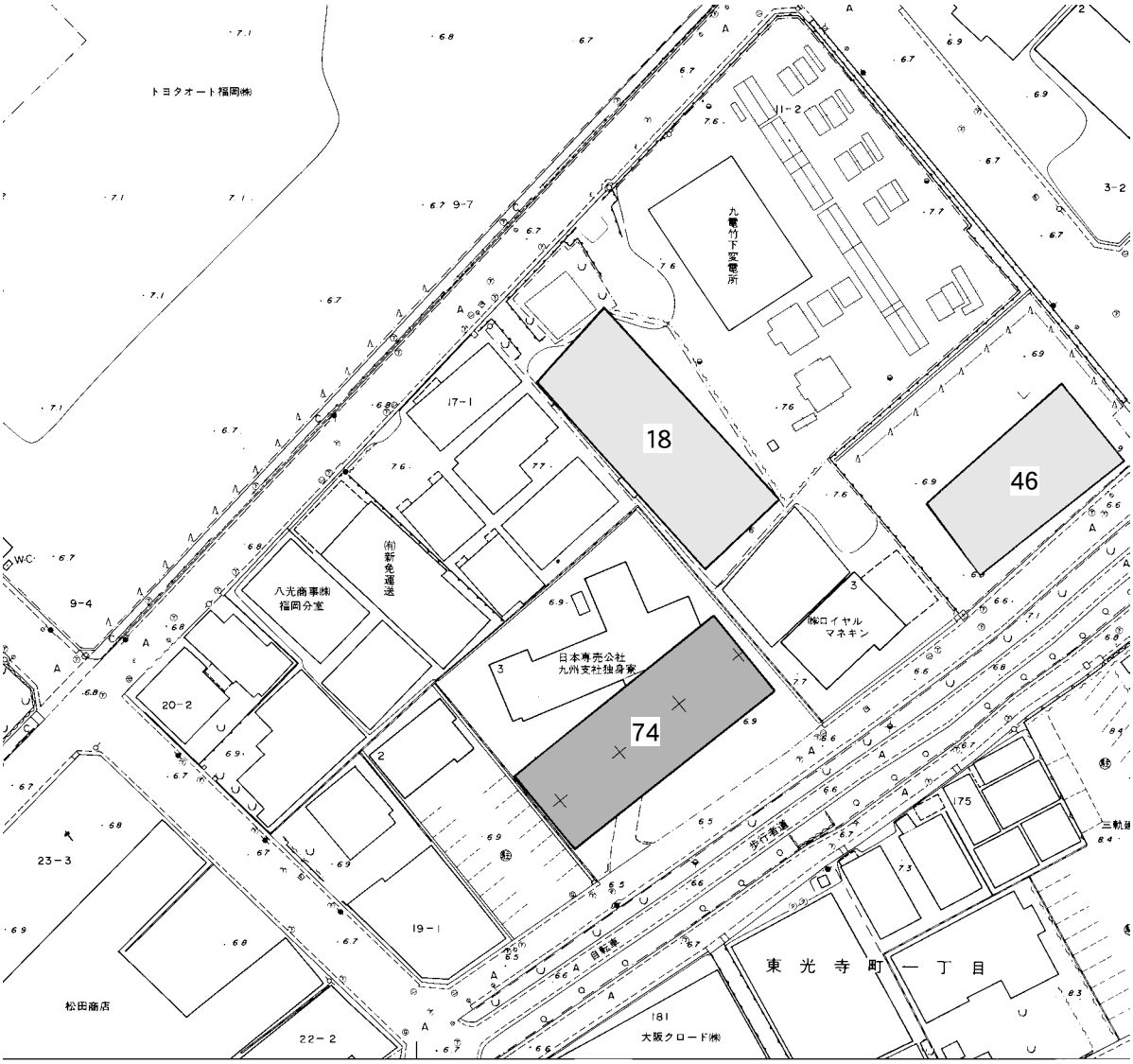
調査第２係長　　力武卓治（前任）　田中寿夫（現任）

庶務担当　文化財整備課　御手洗清

調査担当　試掘調査　加藤隆也・大塚紀宜　本調査　佐藤一郎　松浦一之介

発掘調査・資料整理協力者　大崎宏之・木山啓子・嶋ヒサ子・為房紋子・播磨博子・水田ミヨ子・村井藤枝・村山巳代子・持丸玲子・森田祐子・山口慶子・萬スミヨ・石水久美子・小田敬子

その他、発掘調査に至る諸々の条件整備、調査中の調整等について施主の株式会社理研ハウスの皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

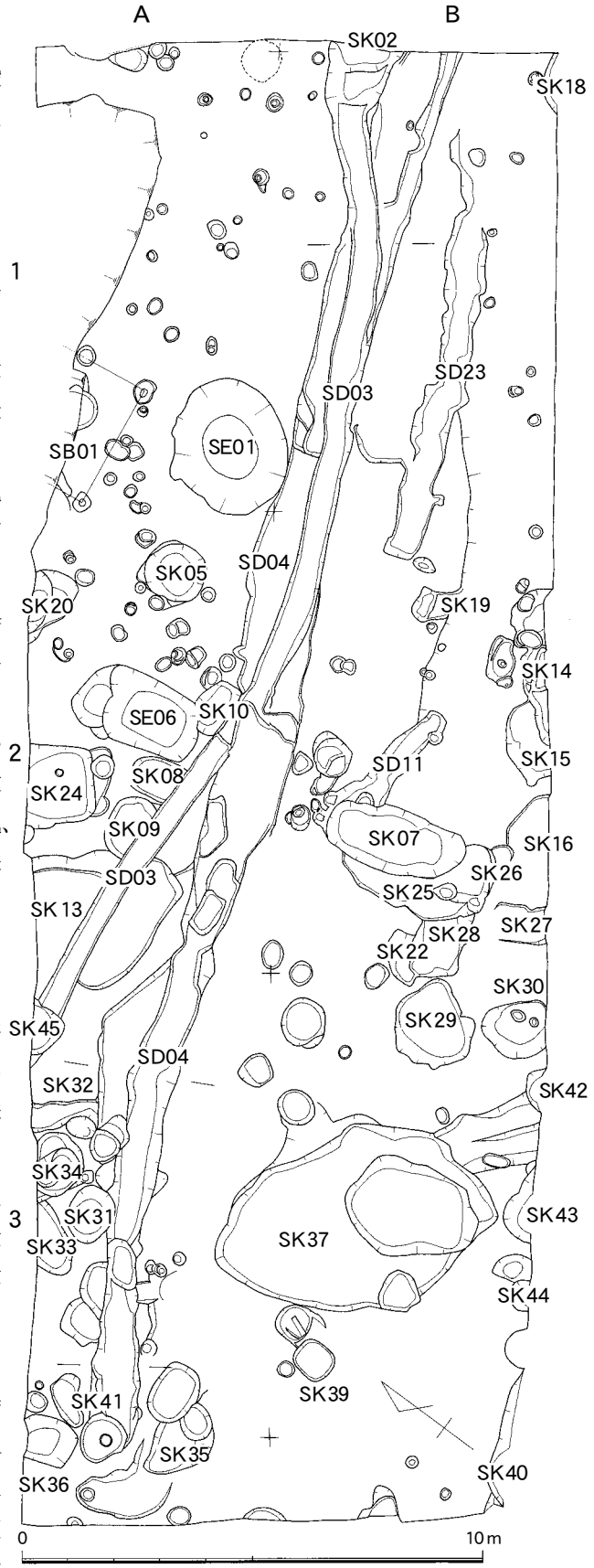


第２図　比恵遺跡群第 74 次調査地域周辺図

Ⅱ　発掘調査の概要

2001(平成13)年４月２日にバックホーによる表土剥ぎから調査を開始、翌３日に発掘機材を搬入、作業員を入れ、遺構検出に着手した。残土は建物建設部分から外れた部分に置くことができ、調査対象地を一度に剥ぐことができた。

福岡平野を北に流れる那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する比恵遺跡群に含まれる本調査地は北東側で1992年に共同住宅建築に伴う第46次調査と同様に過去に大きく削平を受け、基盤層の鳥栖ロームが失われ、遺構は現地表下1.2ｍ、旧耕作土直下の八女粘土上での確認となった。調査区の南半部にはその上面に遺物包含層(黒色土)が薄く堆積しており、人力で掘り下げた。遺構検出面の標高は5.5～5.8ｍを測り、南側へ向かってやや低くなっている。第46･74次調査地の北側に位置する第18次調査地のそれが7.2～7.4mを測ることから、削平の度合いを推測できよう。従って第46次調査と同様に第18次調査で多数検出された竪穴住居跡は１棟も検出されず、検出した遺構は溝３条、井戸２基の他、土坑、柱穴・ピット状遺構を多数にとどまる。溝ＳＤ03は調査区を東西に走る幅約１ｍの溝で、延長32ｍ検出した。遺構の時期は６世紀中頃とみられる。溝ＳＤ04は幅50cmの東西溝で、SD03の一部を切る。延長22mを検出した。井戸を２基、土坑、柱穴・ピット状遺構は多数検出した。調査区の北端では11世紀前半の土坑(溝の可能性も考えられる)を検出した。完形に近い土師器小皿・丸底杯、黒色土器椀が出土した。直径50～80cmの土坑SK29～31の時期は６世紀中頃から後半にかけてのもので、その性格は不明である。土坑SK24は土坑墓の可能性が考えられ、６世紀後半とみられる。土坑SK37は４×６ｍの不整楕円形の土坑で、深さ60cmを測る。時期は弥生時代終末とみられる。柱穴は直径40cm前後のもので、90個を越える。古いもので、弥生時代中期の２×１間以上の掘立柱建物を１棟復元できた。直径40cm、深さ30㎝の円形の柱穴



第３図　比恵遺跡群第74次調査遺構配置図

から構成される。柱穴の新しいものは6世紀後半。5月16日に全景写真撮影、28日には実測を終了した。29日から埋め戻しを開始、31日の機材撤収で発掘調査を終了した。

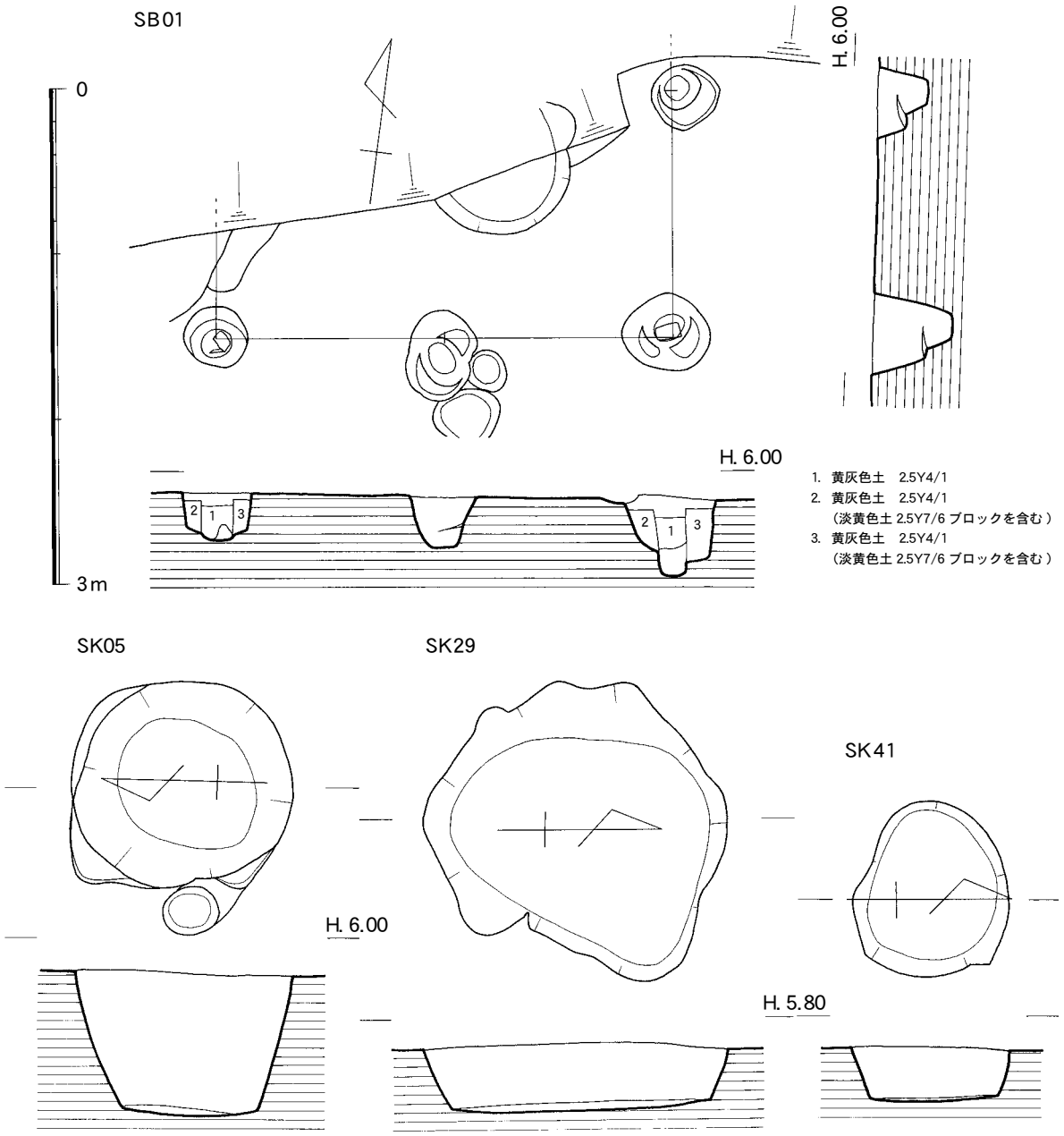
Ⅲ　遺構と遺物

1　検出遺構（第３～５図　図版１・２・３）

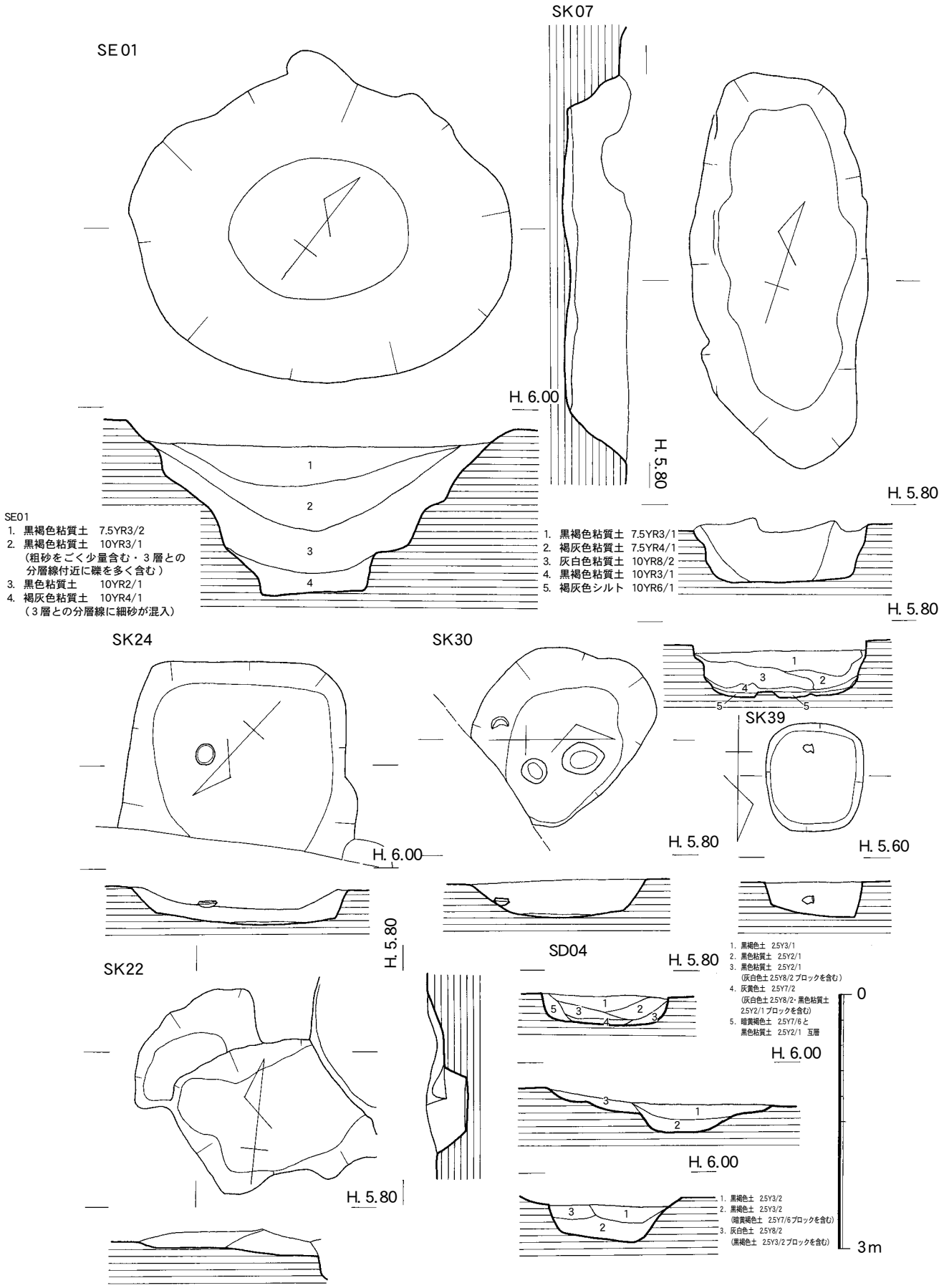
掘立柱建物　SB01　Ａ－１で検出した。直径40cm、深さ30cmの柱穴から構成され、北側は調査区外へ延びる。１×２間以上の建物で、柱間の距離は1.4mを測る。

井戸　SE01　Ａ－１で検出した。掘り方は上面径2.4～2.9mの略円形を呈し、深さ1.4ｍ、底面の標高4.5mを測る。井戸枠等の施設はみられなかった。遺構の時期は12世紀前半とみられる。

SE06　Ａ－２で検出した。掘り方は1.5×2.9mの隅丸方形を呈し、深さ1.3ｍ、底面の標高4.5m



第４図　検出遺構実測図（1）



第５図　検出遺構実測図（2）

を測る。井戸枠等の施設はみられなかった。長軸の方位はＮ－15°－Ｗにとる。

土坑

SK05　Ａ－１で検出した。平面形は不整円形を呈し、直径 1.2 ～ 1.4m、深さ 0.9 ｍを測る。

SK07　Ｂ－２で検出した。平面形は楕円形を呈し、全長 3.1m、幅 1.4m、深さ 0.5 ｍを測る。壁は斜めに立ち上がる。

SK22　Ｂ－２で検出した。SK28 に切られる。平面形は一辺 0.9m の隅丸方形を呈し、深さ 10cm を測る。壁は斜めに立ち上がる。須恵器杯身片が出土した。

SK24　Ａ－２で検出した。北西部は調査区外に延びる。平面形は隅丸方形を呈し、全長 1.7m 以上、幅 1.5m、深さ 0.3 ｍを測る。壁は斜めに立ち上がる。須恵器杯身が底面より 10cm 浮いた状態で出土した。土坑墓の可能性が考えられる。長軸の方位はＮ－24°－Ｗにとる。

SK29　Ｂ－２で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、全長 1.8m、幅 1.5m、深さ 0.4 ｍを測る。

SK30　Ｂ－２で検出した。南東部は調査区外に延びる。平面形は不整楕円形を呈し、全長 1.4m 以上、幅 1.2m、深さ 0.3 ｍを測る。壁は斜めに立ち上がる。半分が欠失した須恵器杯身が壁に貼り付いた状態で出土した。

SK31　Ａ－３で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、全長 0.9m 以上、幅 0.75m、深さ 0.3 ｍを測る。壁はやや斜めに立ち上がる。ミニチュア土器甕が底面より 10cm 浮いた状態で出土した。長軸の方位はほぼ南北方向にとる。

SK41　Ａ－３で検出した。平面形は不整円形を呈し、直径 0.95 ～ 1.4m、深さ 0.9 ｍを測る。

溝

SD03　調査区を湾曲し東西に走る幅約１ｍ、深さ 20cm の溝で、延長 32 ｍ検出した。底面の標高差はほとんどない。

SD04 幅 50cm、深さ 25 ～ 35cm の東西溝で、方位はＮ－67°－Ｗにとる。SD03 の一部を切る。延長 22m を検出した。底面の標高差はほとんどない。

２　出土遺物（第６～８図　図版３）

SK02 出土遺物

土師器

小皿（１）　底部はヘラ切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。　口径 10.2cm、器高 2.1cm、底径 8.4cm を測る。

丸底杯（2・3）　内面をコテ状の工具を用いて平滑にし、３は口縁下にコテ当て痕が放射状にみられる。いずれも体部外面は回転横ナデ、外底部にはヘラ切り離し、板状圧痕がみられる。口径 14.8・15.0cm、器高 3.9cm を測る。

黒色土器　椀（4・5）　内湾気味の体部に外反する口縁部が付く。内面は横方向にヘラ磨きし、炭素を吸着させ黒色を呈する。４は内湾気味の撥状の高台を貼り付ける。器表の磨滅が著しいが、体部外面中位に指頭圧痕、高台付近に横ナデ、外底には板状圧痕がみられる。復元口径 14.6cm、器高 5.6cm、高台径 7.0cm を測る。５は体部中位で屈曲し、外反する撥状の貼り付け高台が付く。体部外面は高台内側まで横ナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 15.3cm、器高 5.4cm、高台径 6.7cm を測る。

SD03 出土遺物　高杯（6）は SD04 から出土した破片と接合した。

土師器　高杯（6）　脚長の脚付椀の形状を呈する。口縁部は外反し、脚の上部は中空になっていない。

須恵器

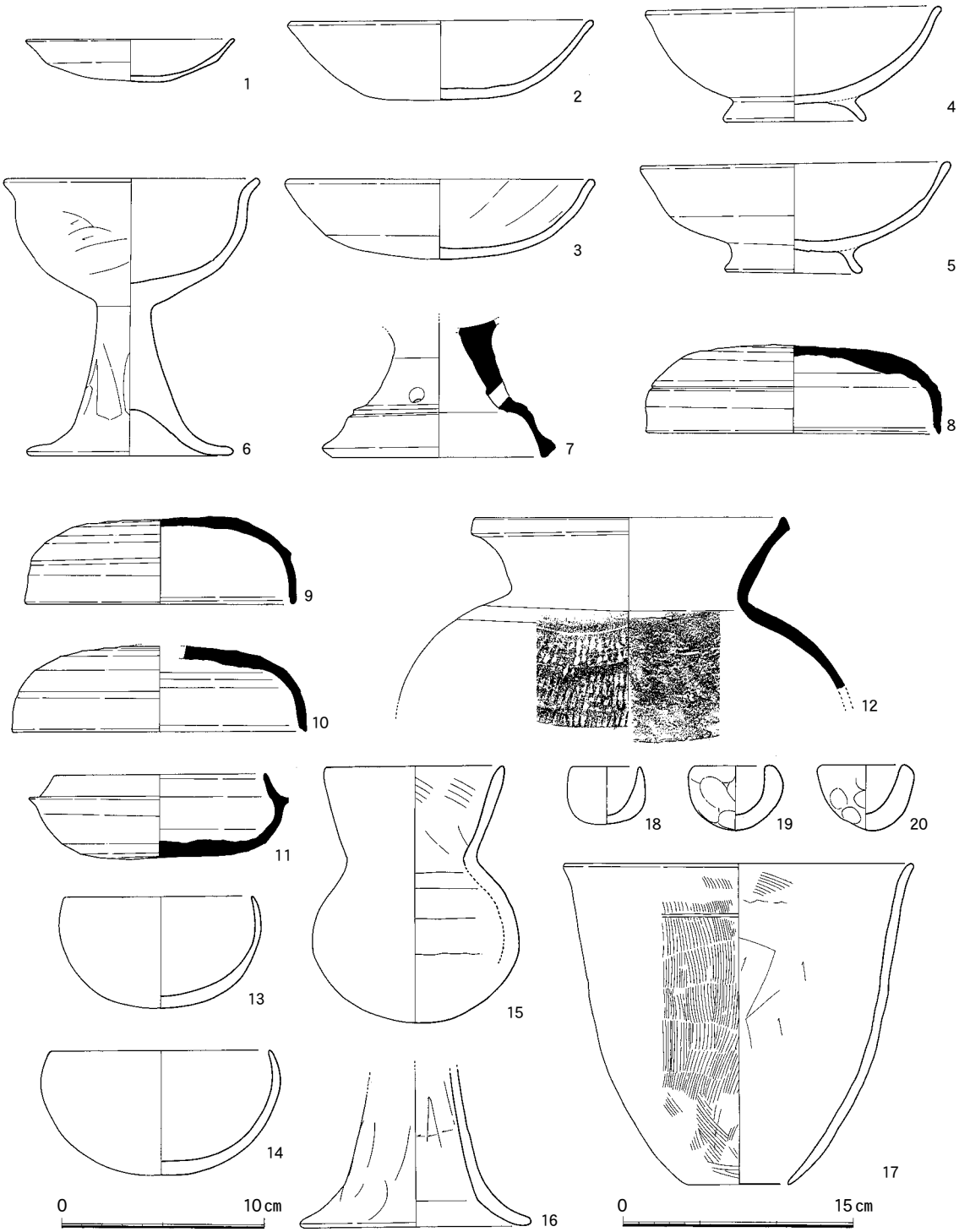
高杯(7)　杯部は欠失している。脚部は三方向から穿孔され、端部は肥厚している。

杯蓋(8)　天井部と口縁部の境に凹線が入り、口縁端部内面には段がつく。

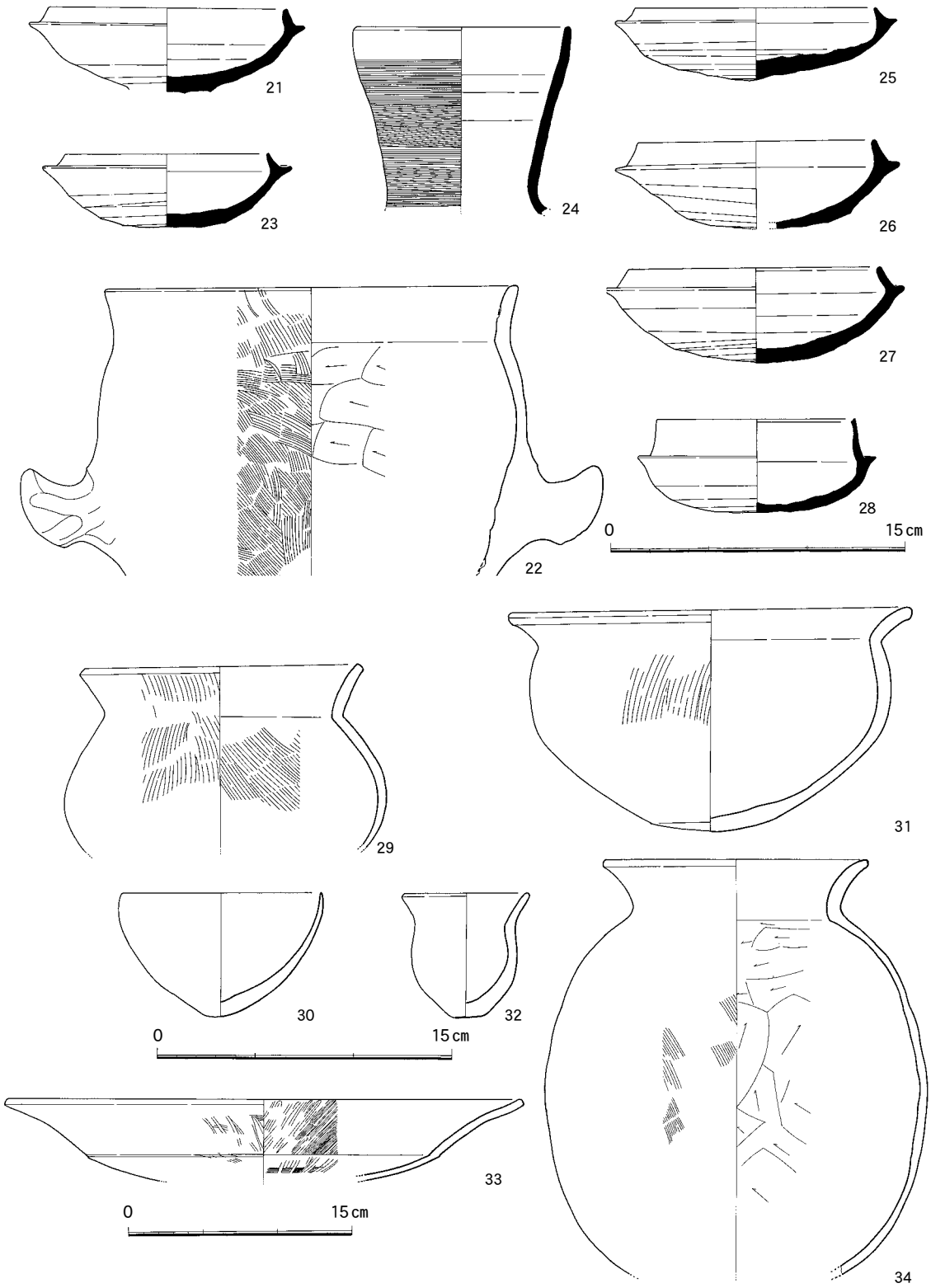
SD04 出土遺物

須恵器

杯蓋(9･10)　天井部と口縁部の境は凹弯し、口縁端部内面には段がつく。



第6図　出土遺物実測図（1）



第７図　出土遺物実測図（2）

杯(11)　立ち上がりは高さ 1.1cm を測り、基部から直線的に内傾する、口縁端部内面に沈線状の段がつく。立ち上がりと受け部の境が不明瞭である。

甕(12)　口縁端部は肥厚し、上方につまみ出される。肩部に凹線をめぐらせ、体部外面に叩き目、内面には当て具痕が雑にナデ消される。

土師器

椀(13･14)　半球形の丸底の椀で、口縁部は内湾し薄くおさめられている。

坩(15)　口縁部が直線的に開く丸底の壷である。

高杯(16)　杯部は欠失。脚部下位裾部との境の屈曲部内面に稜が入る。内面は横方向にヘラ削りされる。

甑(17)　ほぼ直線的に開く体部にゆるやかに外反する口縁部をもち、端部を丸くおさめる。器周の残存が 1/4 前後で、把手がつく部位は失われている。調整は、口縁部が横ナデ、胴部は外面が刷毛目、内面はヘラ削りされる。

手捏土器(18 ～ 20)　鉢形のミニチュア土器で、19･20 の外面には指頭圧痕が顕著に残る。

甕(34)　口縁部は窄まり気味の頸部から外反する。胴部の内面はヘラ削り、外面にはハケ目が残る。

SK14 出土遺物　須恵器　有蓋高杯身(21)　立ち上がりは高さ 0.8cm を測り、基部から短く内傾する。脚部は欠失。

SK17 出土遺物　土師器　甑(22)　外面は刷毛目、内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラ削りしている。把手部はヘラ状工具によるナデを施す。

SK18 出土遺物　須恵器　杯身(23)　立ち上がりは高さ 0.6cm を測り、基部から短く内傾する。

SK19 出土遺物　須恵器　壷(24)　直口壷の口縁部で、端部は丸くおさめられる。内面上半から外面口縁部下まで横ナデ、それより下位はカキ目、内面下半は斜め方向のナデを施す。

SK22 出土遺物　須恵器　杯身(25)　立ち上がりは高さ 0.6cm を測り、基部から短く内傾する。立ち上がりと受け部の境は不明瞭である。

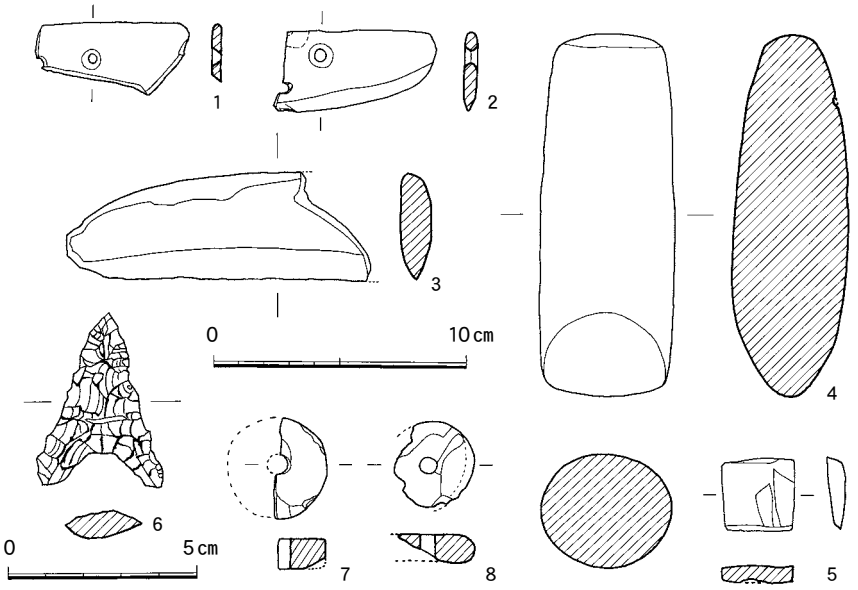
SK24 出土遺物　須恵器

杯身(26･27)　立ち上がりは高さ 1.0・1.1cm を測り、基部から短く内傾する。完形の 27 は口径 12.7cm、器高 4.8cm、受け部径 15.3cm を測る。

SK30 出土遺物　須恵器

杯(28)　立ち上がりは高さ 1.8cm を測り、基部から直線的に内傾する、口縁端部内面に鋭く段がつく。

SK37 出土遺物　弥生土器　甕(29)　口縁部はく字状を呈し、内外面にハケ目が残る。鉢(30)　内湾する口縁部は薄くおさめられ、胴部は扁球状を呈する。



第 8 図　出土遺物実測図（3）

Pit70 出土遺物　弥生土器　鉢（31）　胴部は扁球形、口縁部はく字状を呈し、胴部外面にハケ目が残る。

SK39 出土遺物　弥生土器　甕（32）　く字状口縁に不明瞭な平底を呈する小型の甕形土器である。

SK41 出土遺物　弥生土器　高杯（33）　口縁部は杯部下位で屈曲し、大きく外反する。内外面は密にヘラ磨きされる。脚部は欠失している。

石器・石製品

１・２は小豆色を呈する石包丁で、包含層からの出土である。１は半月状を呈し、刃部を欠失している。２は長方形状を呈し、刃部は両面から研ぎ出す。幅 3.2cm、厚さ 5㎜を測る。３は小豆色を呈する石鎌で、刃部は直線状をなし、その先端と基部は欠失している。包含層出土。４は灰色を呈する玄武岩製の大型蛤刃石斧で、ほぼ完存し全長 14.2cm、幅 5.2cm、厚さ 4.5cm を測る。ＳＫ 18 出土。５は扁平片刃石斧で、基部は欠失している。ＳＤ 03 出土。６は黒曜石製の打製石鏃で、三角形の鏃身に、半月形に抉り込む基部を有する。Pit07 出土。７・８は滑石製紡錘車である。７は半分が欠失しているが、直径 5.0cm、厚さ 1.2cm、円孔の径 7㎜を測る。ＳＫ 21 出土。８は復元した直径 3.5cm、厚さ 1.2cm、円孔の径 7㎜を測る。ＳＫ 07 出土。

Ⅳ　小　　結

今回の調査では第 46 次調査と同様にかなりの削平を受けていたために、第 18 次調査で良好な残存状態で多数検出された竪穴住居跡は全く検出されず、井戸・溝・土坑・柱穴・ピット状遺構にとどまった。調査区を縦断するかたちで検出された溝ＳＤ 04 は第 46 次調査検出の溝ＳＤ 02 と出土遺物の時期・幅・深さが一致する。ＳＤ 04 はほぼ直線状に延びているが、第 46 次調査ＳＤ 02 は弧状である。第 46･74 次調査地の北西に位置する 18･45 次調査では同時期の遺構が検出されている。それら調査地を含む広い範囲に想定される集落を囲繞、或いは区画したものであろうか。第 46 次調査包含層からは全面施釉の越州窯青磁碗片が出土しているが、土坑 SK02 出土の土器群とほぼ同時期のものであろう。

図版 1

（1）比恵遺跡群第 74 次調査全景（南西から）

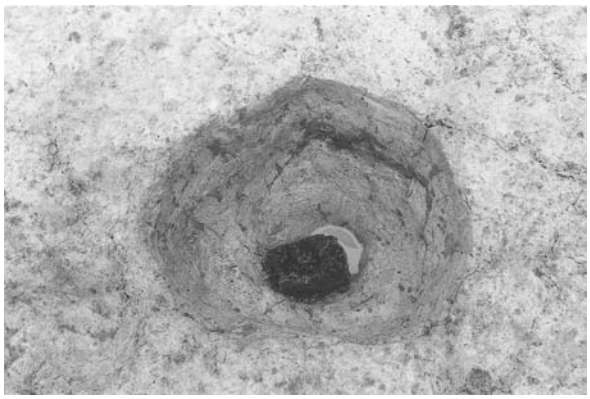
（2）SB01 掘立柱建物（南から）

図版 2

（1）SB01 掘立柱建物柱穴 Pit29 土層（南から）

（2）SB01 掘立柱建物柱穴 Pit24 土層（南から）

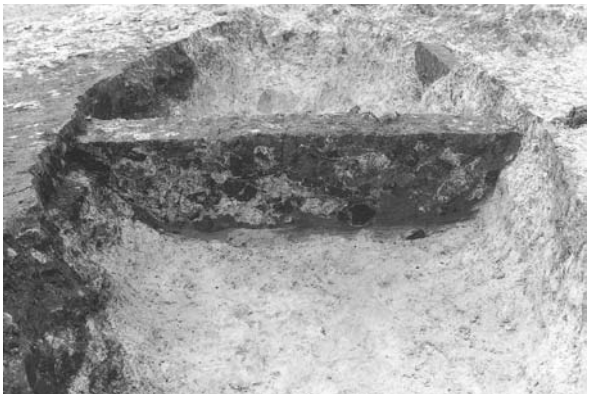
（3）SK05 土坑（南から）



（4）SB01 掘立柱建物柱穴 Pit24 柱根検出状況（南から）

（5）SE01 井戸土層（南東から）

（6）SE01 井戸完掘状況（南東から）



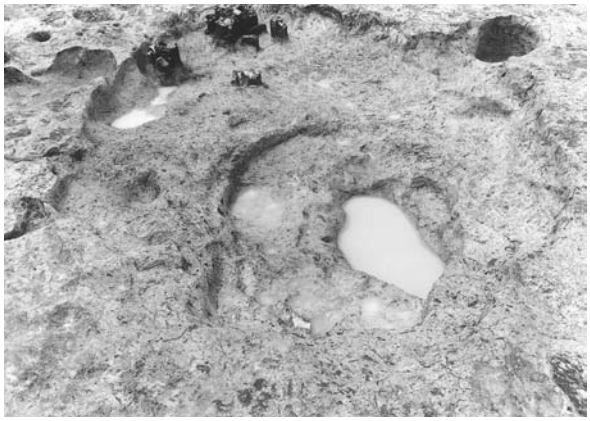
（7）SK07 土坑土層（南東から）

（8）SE06 井戸土層（南東から）

（1）SK24 土坑（南東から）

（2）SK30 土坑（北東から）

（3）SK17 土坑（南から）



（4）SK37 土坑（南東から）

（5）SD04 溝土層④（西から）

（6）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひえ
書名	比恵 34
副書名	―比恵遺跡群第 74 次調査報告書―
巻次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 820 集
編著者名	佐藤一郎
発行機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810－8621　福岡市中央区天神１－８－１　TEL 092－711－4667
発行年月日	2004（平成 16）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
比恵（ひえ）遺跡群	福岡県福岡市 博多区博多駅南	40132		33° 34′ 26″	130° 26′ 4″	20010402 ～ 20010531	365	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
比恵遺跡群	集落	弥生時代後記末～平安時代末	掘立柱建物 井戸 土杭 溝	土師器小皿・杯・高杯・甕・甑 須恵器杯・高杯・甕 弥生土器甕・高杯	

比　恵　34

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 820 集

2004年（平成16年）3月31日

発　行　　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８－１
（092）711－4667

印　刷　　末松印刷株式会社
福岡市博多区東那珂２丁目４番 36 号
（092）411－6131